

## 被災者の支援と全線復旧に向けて —熊本県を中心とする九州大地震発生に対する声明—

4月16日未明、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3の大地震が発生しました。同14日に発生した最大震度7の前震を含め、震度6弱以上の強い地震が熊本・大分両県をはじめ九州各地で発生し、多数の家屋が倒壊し、大規模な土砂崩れによる被害も発生するなど、各地で甚大な被害が生じています。被災した組合員・家族はもとより、全ての被災された方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

この地震により、水道、エネルギー、JRをはじめとする交通機関など基幹インフラに大きな影響が出ています。また、余震が今もなお続き、多数の方々が避難所での生活を余儀なくされ、不安な日々を送っています。

JR九州管内では、九州新幹線において、回送列車が脱線した他、少なくとも防音壁の落下が50ヶ所、高架橋の亀裂が25ヶ所見つかり、現時点で復旧の見込みは立っていません。また、在来線においても、豊肥本線では土砂流入による線路被災が発生するなど大きな被害が生じており、現在、グループ労組組合員を含め、組合員が総力を挙げて、昼夜を問わず復旧に向けた作業を行っています。

JR連合は、こうした事態を踏まえ、4月19日に持ち回り執行委員会を開催し、「熊本地震救援対策本部」を設置しました。JR連合8万2千名総力を挙げて、被災された組合員・家族を支え、復旧活動を全面的に支援します。

また、同20日には第11回執行委員会を開催し、全組合員を対象とした「緊急カンパ」をはじめとする被災者支援の取り組みを確認するとともに、莫大な金額が想定される復旧費用についても、JR連合国会議員懇談会と連携を図り、鉄道軌道整備法の超法規的適用を政府に要請することも確認したところです。

今こそ労働組合の本分である、相互扶助・助け合いの精神を発揮し、被災された組合員・家族の支援に全組合員が総力を挙げよう！

そして、鉄道員魂を発揮し、地域の復興に欠かせない鉄道の全線復旧に向けて、全力を傾注しよう！

2016年4月20日

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）